

## 大雪山グレードについて

### 1. 大雪山グレードとは

大雪山国立公園内には総延長約300kmにわたる登山道があります。

登山道の区間毎に自然条件や立地（登山口からの距離、避難小屋など施設の有無）が異なり、登山の難易度や登山で得られる体験の程度も異なります。

大雪山国立公園では登山道の区間毎に、登山者が自己責任で行動判断を行う時の目安（区間における行動判断の要求度や難易度）や登山で体験する雰囲気等の程度（区間における「原始性」、「静寂性」又は「気軽さ」などから体験するもの）を「グレード1」から「グレード5」までの5段階にわけた「大雪山グレード」を設定しました。

登山道の管理者は、登山道の区間毎に設定された「大雪山グレード」に応じた登山道の保全修復や維持管理を行い、大雪山らしい自然環境と雰囲気の保持に努めます。

大雪山国立公園での登山を計画する際、また登山を行う際に、自らが歩く登山道の「大雪山グレード」を確認することで、個々の力量に応じた登山を行い、遭難事故の防止、登山利用の適正が図られることを期待しています。






### 2. 大雪山グレードを知るには

大雪山グレードは、北海道地方環境事務所ホームページ、大雪山国立公園レンランク協議会ホームページよりグレード毎に色分けがされた地図の入った資料をダウンロードできます。

詳細について知りたい方は、同ホームページより「大雪山国立公園登山道管理水準 2015年改定版」の冊子データから確認して下さい。

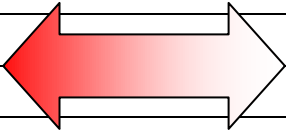
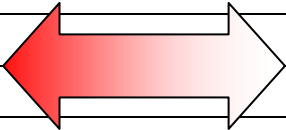
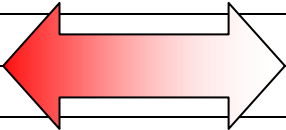
また、関係行政機関などと調整を図り「大雪山グレード」を示す登山案内板や指導標識の整備を順次進めたり、「大雪山グレード」のグレード別に色分けした登山地図の作成を進める予定としています。

## 「大雪山グレード」

	グレード 5	<b>大雪山の極めて厳しい自然に挑む登山ルート</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地形的条件等から天候判断がより難しく、且つ登山口からの距離や避難小屋の間隔が長くエスケープ*を取りづらい登山ルートや徒渉*や岩場通過等高度な技術を要する登山ルート</li> <li>・自然の雰囲気保持を最優先とした登山ルート</li> <li>・登山者自らのリスク管理が必須とされ、極めて高度な行動判断を要求される登山ルート</li> </ul>
	グレード 4	<b>大雪山の厳しい自然に挑む登山ルート</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地形的条件等から天候判断がより難しい登山ルートや登山口、ロープウェイ駅からの距離が長く日帰りに適さない登山ルート</li> <li>・自然の雰囲気保持を最優先とした登山ルート</li> <li>・登山者自らのリスク管理が必要とされ、高度な行動判断を要求される登山ルート</li> </ul>
	グレード 3	<b>大雪山の自然を体感する登山ルート</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登山口、ロープウェイ駅からのアクセスが比較的良く、日帰り程度の距離で設定された登山ルート</li> <li>・歩行の快適性よりも自然の雰囲気保持を優先した登山ルート</li> <li>・登山者自らの一定のリスク管理が必要とされ、一定の行動判断を要求される登山ルート</li> </ul>
	グレード 2	<b>大雪山の自然とふれあう軽登山ルート</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登山口、ロープウェイ駅舎からのアクセスが良く、比較的短距離で設定された登山ルート</li> <li>・段差処理*、ぬかるみ対策等に努め、一定の歩行の快適性の確保に配慮されている登山ルート</li> </ul>
	グレード 1	<b>大雪山の自然とふれあう探勝ルート</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温泉施設やロープウェイ駅舎からのアクセスが良く、比較的高低差が少なく設定された一般観光利用者向けルート</li> <li>・段差処理、ぬかるみ対策等に努め、一定の歩行の快適性の確保に配慮されている探勝ルート</li> </ul>

※公園計画に定められた路線のうち、林道等登山口までのアクセス路の通行止め、登山道の管理状況から登山者に案内ができないものについては、「非適用」として「大雪山グレード」を適用していません

### 「大雪山グレード」のグレード設定の考え方

構成要素		ランク				
		グレード5	グレード4	グレード3	グレード2	グレード1
行動判断の要求度・難易度						
評価項目	天候悪化時のリスク回避の難度	高い				低い
	登山口等からのアクセス	遠い				近い
	登山施設の充実度	簡素				充実
	維持管理の程度	低い				高い
登山体験の程度						
評価項目	環境の雰囲気	原生的・原始的			都市的・人為的	
	利用密度	低い				高い
	利用の雰囲気	静か				にぎやか
	登山のレベル	挑戦的				手軽
利用想定対象者		登山者			観光客含む	

# 大雪山グレード



0 5 10 km



## ■大雪山グレード (利用体験ランク)

- グレード5 『大雪山の極めて厳しい自然に挑む登山ルート』
- グレード4 『大雪山の厳しい自然に挑む登山ルート』
- グレード3 『大雪山の自然を体感する登山ルート』
- グレード2 『大雪山の自然とふれあう軽登山ルート』
- グレード1 『大雪山の自然とふれあう探勝ルート』
- 非適用 (登山道として供用していません)


注) グレード5のうち点線表示のルートは次のとおりですので、注意して下さい。  
 ・台地ゲートから三川台のルートは、一般供用された登山道ではありません。所定の手続きをとり、自己責任で利用して下さい。  
 ・三笠新道分岐から高根ヶ原分岐の三笠新道は、ヒグマの採餌地を横断する道であることから、ヒグマとの軋轢防止のため、毎年ヒグマの定着が確認される7月初旬以降登山道を閉鎖しています。利用期間は例年6月中旬から7月初旬と極めて限定的で、残雪期に利用するルートとなります。

## ■主なアクセス道

- 国道・道道
- 町道
- - - - - ロープウェイ・ペアリフト
- 林道 (G) 施錠ゲート (⊘) 現在通行止

## 《大雪山グレードの適用事例》

### グレード5の事例：オプタテシケ山～三川台～トムラウシ山

	<b>グレード 5</b>	<b>大雪山の極めて厳しい自然に挑む登山ルート</b> <ul style="list-style-type: none"><li>• 地形的条件等から天候判断がより難しく、且つ登山口からの距離や避難小屋の間隔が長くエスケープを取りづらい登山ルートや徒渉や岩場通過等高度な技術を要する登山ルート</li><li>• 自然の雰囲気保持を最優先とした登山ルート</li><li>• 登山者自らのリスク管理が必要とされ、極めて高度な行動判断を要求される登山ルート</li></ul>
---	-------------------	--


この区間は、大雪山国立公園の中でも最も人為的な整備が少ない登山道で、分岐における指導標識、主たる山に設置された山頂標識以外の人工構造物は設置されていません。遅くまで大きな雪渓が残る箇所やヤブ化した区間があり、ヒグマも多く生息しています。

ルート途中に野営指定地はあるものの、避難小屋はありません。登山口から遠くエスケープルートもない区間であるため、行程管理、天候判断等きわめて高度な行動判断が要求されるルートです。

原始性の高い自然の雰囲気保持を最優先とし、指導標識等の既存施設の確認等必要最小限の管理を行っています。



### グレード4の事例：北海岳分岐～白雲岳分岐～白雲岳避難小屋


	<b>グレード 4</b>	<b>大雪山の厳しい自然に挑む登山ルート</b> <ul style="list-style-type: none"><li>• 地形的条件等から天候判断がより難しい登山ルートや登山口、ロープウェイ駅からの距離が長く日帰りに適さない登山ルート</li><li>• 自然の雰囲気保持を最優先とした登山ルート</li><li>• 登山者自らのリスク管理が必要とされ、高度な行動判断を要求される登山ルート</li></ul>
---	-------------------	---

この区間は表大雪の中でも原始性が高い自然環境であり、縦走登山者が多く利用する区間です。登山口から日帰りも可能ですが、長時間の強行行程となります。稜線上に位置し、天候判断を自ら行い、最善の行動に向け判断する能力が要求されます。

この区間には、白雲岳避難小屋と白雲岳野営指定地があり、トイレも設置されています。原始性の高い自然の雰囲気保持を最優先とした管理を行います。



## グレード3の事例：姿見園地～旭岳

	<p>グレード 3</p>	<p><b>大雪山の自然を体感する登山ルート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登山口、ロープウェイ駅からのアクセスが比較的良く、日帰り程度の距離で設定された登山ルート</li> <li>・歩行の快適性よりも自然の雰囲気保持を優先した登山ルート</li> <li>・登山者自らの一定のリスク管理が必要とされ、一定の行動判断を要求される登山ルート</li> </ul>
---	-------------------	--


この区間は、旭岳登頂、旭岳から裾合平の周回、旭岳ロープウェイから黒岳ロープウェイ間の日帰り縦走等で利用されている大雪山のメインルートで、道内外から多くの登山者が訪れています。

この区間は、ガレ場\*も出てくる風衝地\*です。ルートは比較的明瞭ですが、悪天時には視界が著しく悪化しルート判別が難しくなります。そのため、濃霧になると旭岳からの下山時にルートを見失いやすく、遭難事故も発生しています。

ここでは、雄大な大雪山の自然の雰囲気を保ちながら管理を行います。



## グレード2の事例：姿見園地～裾合平分岐


	<p>グレード 2</p>	<p><b>大雪山の自然とふれあう軽登山ルート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登山口、ロープウェイ駅舎からのアクセスが良く、比較的短距離で設定された登山ルート</li> <li>・段差処理、ぬかるみ対策等に努め、一定の歩行の快適性の確保に配慮されている登山ルート</li> </ul>
---	-------------------	---

この区間は、姿見園地から裾合平の往復に利用されるほか、旭岳登頂の下山コースや黒岳からの縦走、愛山溪からの縦走に利用されています。夏山シーズン中はルートが明瞭で、こまめな登山道の保全修復作業が行われているため、歩きやすい道になっています。ただし、シーズン初めは雪渓が残っているため、旭岳ロープウェイ姿見駅のレクチャーを参考に慎重な行動が必要です。

ここでは、登山初級者が自然とのふれ合いを楽しむことができる、歩きやすく整備された道となるよう管理を行います。



## グレード1の事例：紅葉谷入口～紅葉滝

	<b>グレード 1</b>	<b>大雪山の自然とふれあう探勝ルート</b> <ul style="list-style-type: none"><li>温泉施設やロープウェイ駅舎からのアクセスが良く、比較的高低差が少なく設定された一般観光利用者向けルート</li><li>段差処理、ぬかるみ対策等に努め、一定の歩行の快適性の確保に配慮されている探勝ルート</li></ul>
---	-------------------	---

このルートは、層雲峡温泉から近く、紅葉谷入口から紅葉滝まで1時間程で往復できる高低差が少ない歩きやすい道です。柱状節理や紅葉滝、クマゲラ採餌木等を間近に観察でき、層雲峡温泉を訪れた観光客の散策やエコツアーに利用されています。

ここでは、一般観光客が自然とのふれ合いを楽しむことができるよう、一定の快適性が確保された道となるよう管理を行います。

